

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

事業課題名	社会言語学の方法——世界のさまざまな英語を理解するために（集中講義）
代表者名	家入 葉子
事業概要 (600 字程度)	<p>2015 年 8 月に、ニューカッスル大学教授 Karen Corrigan 教授を招聘し、「社会言語学の方法」をテーマに集中講義を行った。文学部 2 回生～4 回生、大学院文学研究科修士課程 1～2 回生の学生を対象にした集中講義で、文学部および文学研究科の通常の単位として認定を行った（8 コマ、1 単位）。</p> <p>2013 年度、2014 年度は社会言語学、英語方言研究を専門とする講師を招聘し、多様な英語の実態を学ぶことに重点をおいた授業を提供したが、2015 年度は、これに加えて、実践面に重点を置いた。したがって授業では、実際にフィールドに出て英語の実態を調査する方法を学ぶとともに、そのトレーニングも行った。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>通常の英語教育は、その性質から規範的にならざるを得ない面があるが、実際の英語は学校文法が扱う内容をはるかに超えた多様性を内包している。この点を具体的な事例を通して学ぶことが、本集中講義の目的であり、招聘した Karen Corrigan 教授は、この分野の研究でよく知られた研究者である。特にアイルランドにおける英語の多様性に詳しく、本事業においても、現在のアイルランドおよびイギリスにおける言語の多様性について、詳細な講義を提供していただいた。</p> <p>授業では、フィールド調査等に必要な方法論にも重点が置かれていたので、受講者は、具体的な音声の分析など、実習的な学びを通して、英語の多様性を身近なものとしてできた。国際社会におけるコミュニケーションでは、必ずしも規範にしたがった英語ばかりが使用されるとは限らず、言語の多様性に対する備えは不可欠である。この点は、言語研究を目指す場合はもちろんであるが、言語をコミュニケーションの手段として利用する場合も同様である。その意味でも、学部の 2 回生から修士 2 回生までの幅広い学生が受講できるような授業を提供できたことは成功であったと考えてよい。</p> <p>集中講義の後半では、受講者がグループに分かれてプレゼンテーションを行い、これを授業全体の評価とした。グループで協力しながらプレゼンテーションを組み立て、決められた時間の中で、担当者が交替しながら英語で説明を行う体験も貴重なものであったといえる。</p> <p>授業のアンケート結果からも、授業に参加したことに対する受講者の満足度が高かったことは明らかであり、本事業の目的を十分に果たすことができたものと考えられる。</p>